

平成25年度 しが生物多样性大賞 受賞活動

1. 活動の名称

オオバナミズキンバイ除去大作戦

2. 活動の概要

目的・目標	豊かな恵みの宝庫であった赤野井湾が、今では琵琶湖の中で最も汚濁の進んだ水域と言われている。この水域に、突如と現れた外来生物オオバナミズキンバイの完全除去を目指して奮闘中。
活動エリア	赤野井湾
活動の参加者	・積水化成品工業株式会社 ・小津自治会長会 ・新守山川を美しくする会 ・玉津小津漁業協同組合 ・NPO法人国際ボランティア学生協会 ・夢・びわ湖 ・守山市 ・NPO法人びわこ豊穰の郷
活動時期	学習、企画、検討、実施のサイクルを6月～翌年3月 5回/年

3. 取組内容

NPO法人びわこ豊穰の郷は、2009年に赤野井湾に突如現れ、2012年末には生息面積を当初の130倍に急激に広め、繁茂したオオバナミズキンバイの一日も早い除去を2013年度の目標に定めました。

その活動資金調達のため、平和堂財団「夏原クランド活動助成」に申請し採択されました。

2013年6月に赤野井湾に隣接する小津学区自治会や漁協、また、大学生ボランティア、環境団体、行政に採択の報告と実践活動の企画検討を呼びかけ、**オオバナミズキンバイ除去大作戦プロジェクト**を立ち上げました。

このプロジェクトでは、スクラムを組んで出来ることから始めようとして確認し、まずは除去業者を招き勉強会を持ち、オオバナミズキンバイの特性や驚異的な繁殖力、そして除去の大切さや注意点等の情報の共有を図りました。

10月12日には除去活動を実施し、約120名の参加を得ることができました。この活動には企業である積水化成品工業(株)から約20名のご参加をいただきました。船上や陸上から、絡み合って一株4～5mもある水草を根こそぎ抱えて、人力で取り除く作業は、「きつい・汚い・危険」を伴う作業です。一面に広がったオオバナミズキンバイと格闘する状況を多くのマスコミが取り上げて下さいました。

その結果、12月22日に実施した除去活動には、さらに、高校生やボーイスカウトからも参加をいただき、約160名で除去大作戦を展開できました。雨が押し迫った小雨模様の中ではありませんでしたが、学生など若者のはつらつとした態度や元気な掛け声に、多くの参加者から、楽しく作業ができた后感想を寄せていただきました。

URL <http://www.lake-biwa.net/akanoi/>



4. 今後の課題・将来像等

成果と課題

これまでは、自治会や漁協と共に清掃活動等をしてきましたが、今回のように企業や学生など様々な立場の多くの皆さんと活動をともにできたのは初めての経験です。

あらゆる年代の方が厳しい環境の中で、琵琶湖を守ることに汗を流す大切さと、さわやかさを味わう事が出来たことは大成功だったと思います。

赤野井湾の再生には、何といっても隣接する地域住民に、必要性を痛感して頂くことが大切です。そのためにプロジェクトでスクラムを組んで地域ともに、行動することの教訓を得ました。又、企業を含め年代を超えて琵琶湖・赤野井湾を守ろうと、環境意識が広がったことも特筆すべき一つです。

オオバナミズキンバイとの勝負はまだまだつきません。

今後更に活動を広げ、完全勝利を収めるためには、今まで以上に多くの団体や、企業にも呼びかけ、共に汗を流す人力が必要です。

そして、もっともっと企業の優れた技術力、ノウハウの提供をいただき、効率の高い除去方法を見つける。又、大学や研究所で生態系の解明に力を注ぎ、拡散防止に努めて頂ければと思います。

更に除去したオオバナミズキンバイを有効に活用できる道筋も大切と思います。合わせて財政的支援もお願いしたいと思います。

オオバナミズキンバイ除去大作戦は様々な立場の年代を超えた方々がボランティアとして参加して下さいました。琵琶湖を守ろう、赤野井湾を守ろうと心してくださる方がたくさんおられることに意を強くしました。

来年度は今まで以上に企業との連携を強め、琵琶湖を取り巻く、県民、行政、団体と共にネットワークを広げ、情報の交換と共有と発信を行い、まずは実践、行動を共にし、外来生物オオバナミズキンバイの除去に努めたいと思います。豊かな赤野井湾の再生を目指して・・・

5. 連絡先等

NPO法人びわこ豊穰の郷 〒524-0041 滋賀県守山市勝部5丁目10-25

TEL077-583-8686 FAX077-558-5007

メールアドレス houjyounosato@lake-biwa.net

URL <http://www.lake-biwa.net/akanoi/>